

令和３年度第２回守谷市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和４年３月２４日（木） 午前１０時００分～午前１１時３５分

2 場 所 守谷市役所議会棟２階全員協議会室

3 出席者

〔構成員〕	市 長	松 丸 修 久
	教 育 委 員 会	
	教 育 長	町 田 香
	教育長職務代理者	河 原 健
	委 員	寺 田 弘
	委 員	萩 谷 直 美
	委 員	椎 名 和 良

〔事務局〕	教 育 部 長	宇 田 野 信 彦
	教育部次長兼学校教育課長	小 林 伸 稔
	生涯学習課長	福 島 晶 子
	教育指導課長	古 橋 雅 文
	給食センター長	坂 登 司 男
	中央図書館長	石 川 み どり
	学校教育課長補佐	大 久 保 務

4 傍聴人 なし

5 協議・調整事項

- （１）守谷市教育大綱案について
- （２）その他

6 会議の概要

○教育部次長

ただいまから、令和３年度第２回守谷市総合教育会議を開催いたします。開会に当たりまして、市長から御挨拶をお願いいたします。

○市長

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

今週の初めに新型コロナウイルス感染症まん延防止等の重点措置は解除されましたが、まだまだ予断を許さない状況にあるため、関係者の皆さんには、いろいろな面で御負担をお掛けすると思います。

今年は、守谷市も市制２０周年を迎えると同時に、第三次総合計画を定め、市が目指す

新たな将来像の実現に向けて進んでいく出発の年でもあります。教育大綱も、それに合わせて、新たな出発をしていかねばならないと思います。

これまで、教育委員会、先生方、そして我々行政が、三位一体となって守谷の子どもたちの未来を築き上げてまいりましたが、その成果は多大な評価をいただいております、この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。しかしながら、教育とは、エンドレスである課題です。時代と共に変わりゆくそれぞれの価値観、また、子どもたちの有様も含めて、未来に羽ばたく守谷の子どもたちをしっかりと育てていくために、皆さんと御協議を重ね、新たな大綱の策定に取り組みたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○教育部次長

ありがとうございました。続きまして、教育長から御挨拶をお願いします。

○教育長

市長には、教育インフラに関して、日本一と言って良いほどの環境を整備していただき、心から御礼を申し上げます。

先ほど、教育に関してはエンドレスという言葉がありましたが、私たちもそれを肝に銘じて、今後もしっかりと頑張っていきたいと思います。

守谷の子どもたちは、恵まれた環境の中で一生懸命がんばっています。先日、行われた卒業式では、どの学校でも規律正しく育った、素晴らしい子どもたちの様子を目の当たりにでき、学校教育の成果が子ども一人ひとりに現れていると、涙が出るような気持ちになりました。

来年度は教育大綱も変わりますので、私たちもそれに合わせて教育改革の第2ステージに進みたいと思っています。

本日、その説明をさせていただきますが、教育委員の皆様にも御理解いただき、御支援を賜りたいと思います。今後も、市長と密接に連携し、御指示をいただきながら、新しい守谷を教育の分野から創っていきたいと思います。今後とも皆様の御理解と御支援をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○教育部次長

ありがとうございました。

本日の日程ですが、はじめに守谷市教育大綱案について調整をお願いし、その後、「未来の教育もりやビジョン2022」について御説明し、各委員から御意見等をいただきたいと思います。

それでは、協議調整事項に入りますが、ここからは、守谷市総合教育会議運営要綱第3条第5項の規定により、市長に議事進行をお願いいたします。

○市長

それでは、協議調整事項の「守谷市教育大綱案について」議題といたします。

平成26年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、地方公共団体の長が、教育・学術及び文化の振興に関する大綱を定めることになりました。これは、行政と教育の現場が一緒になって、まちづくりの根幹である教育行政を進めていくという、非常

に画期的で大きな教育界の改革であったと思います。

そのような中で、第三次の守谷市総合計画と連動して、新たに守谷市の教育大綱を策定してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは、事務局から説明をさせていただきます。

○教育部長

はじめに、策定の経緯ですが、先ほど市長からお話がありましたとおり、教育大綱は、地方公共団体の長、守谷市では市長が定めることとなります。本市では、平成28年に、現在の教育大綱「守谷市教育に関する大綱」を定め、これまで様々な施策に取り組んできましたが、計画期間の満了に伴い、新しい守谷市教育大綱を定めるものです。

続いて、策定の考え方ですが、これまでの「守谷市教育に関する大綱」は、「第二次守谷市総合計画」の教育振興に関する基本方針を大綱と定め、その方針の下、施策を実施してきました。

本案においても、令和4年守谷市議会3月定例会月議会において可決された「第三次守谷市総合計画」に基づき、また、国が策定した「第3期教育振興基本計画」を参酌しながら、教育・学術及び文化の振興に関する施策と、それを実現するための取組について、大綱として定めたいと考えています。

また、この大綱は、守谷市総合計画を上位計画として、教育施策などを推進するための方向性を示すものとして位置付けられています。

計画期間は、上位計画である守谷市総合計画の期間と合わせ、令和4年度から令和8年度までの5年間としています。

また、第三次総合計画では、守谷の特性を生かしたSDGsの推進を掲げ、誰一人取り残さない社会の実現を目指すものとなっていますが、今回の教育大綱についても、この考えを取り込んだものとなっています。

それでは、教育大綱の内容について御説明いたします。

4ページの上段に、将来像「水と緑のパワースポットもりや〜持続・創造・進化するまち〜」というフレーズがあります。これは第三次総合計画を構成する基本構想に示された守谷市が目指す将来の姿（イメージ）で、この将来像の実現のため、教育委員会では、①から⑤に掲げた人の育成に向けた教育を推進するとともに、学校教育及び社会教育を充実させ、人生100年時代を見据えた、誰もが生涯を通じて主体的に学び合い、支え合うことができる社会の実現に向け、次の施策を重点的に推進することにしています。

1つ目の施策「教育改革の推進」では、あるべき未来の姿を「教育改革による充実した学校教育の実現」と定め、また、SDGs目標4（質の高い教育をみんなに）の分野において、中長期的に目指すゴールを「包摂的で質の高い教育を普及する」と定めています。

この施策を実現するために、（１）確かな学力の育成、（２）豊かな心を育む教育の推進、（３）健康と体力を育む教育の推進、（４）グローバル社会で活躍できる人、（５）地域とともにある学校づくり、（６）学びを支える環境づくりの6つの事項について取り組むこととしています。

なお、この施策「教育改革の推進」については、総合戦略の32ページ、戦略分野②「自然の中で活力にあふれ、愛着や誇りが持てるまちをつくる」の展開施策－1「質の高い教育環境づくり」に関連した内容になっています。

次に、2つ目の施策「生涯学習の推進」では、あるべき未来の姿を「こどもからおとなまで元気に学び 活躍できるまちを実現」と定め、さらに、SDGs目標3（すべての人に健康と福祉を）の分野における中長期的に目指すゴールを「全ての人の健康的な生活を確保する」と、SDGs目標4（質の高い教育をみんなに）の分野における中長期的に目指すゴールを「包摂的で質の高い教育を普及する」と定めています。

その施策を実現するために、（１）自主的な学習活動の支援と機会・場の提供、（２）スポーツを楽しむ環境づくり、（３）心の豊かさを育む芸術・文化の振興、（４）歴史・文化資産の継承の4つの事項について取り組むこととしています。

なお、この施策「生涯学習の推進」については、総合戦略の32ページ、戦略分野②「自然の中で活力にあふれ、愛着や誇りが持てるまちをつくる」の展開施策－2「人的資源、地域資源、自然環境の活用」に関連した内容になっています。

以上の2つの総合計画における施策を基本に、大綱の内容を決定したいと考えています。

続いて、令和4年度以降の守谷市の教育体系について御説明します。資料は6ページになります。資料左側は第三次守谷市総合計画を示しており、将来像、将来像を実現するための3つの柱（ひと、地域自治、くらしの基盤）、及び手段（施策・取組）により組み立てられています。この施策のうち「教育改革の推進」及び「生涯学習の推進」が、今、説明させていただいた内容になります。

学校教育改革プランについては、「教育改革の推進」に位置付けて実施しているところですが、令和4年度からは、このプランに基づき「未来の教育もりやビジョン2022」を実施し、学校教育現場での教育改革を進めることにしています。これにつきましては、教育大綱について御協議いただいた後に、御説明する予定です。

このほかにも、参考資料1として、表「第3期教育振興基本計画（大綱策定に当たり参酌する事項）」を添付いたしました。これは国が教育全般について定めた計画となりますが、ここで黄色に着色された箇所が、守谷市の教育大綱及び総合計画と合致する項目になります。参考資料2は「教育、学術及び文化に関する計画等の関連図」です。

○市長

新たな守谷市教育大綱案についての説明がありましたが、皆さんからの御質問、御意見があればお願いします。

○椎名委員

コロナ禍において、子ども同士のつながりが希薄であることが顕著化したように思います。これが、不登校やいじめなどの諸問題の根源にあるのだろうと考えています。この教育大綱や総合計画を読ませていただき、これら諸問題の解消には、しゃかりきになって教員が頑張るだけでなく、学校生活や適応指導教室（はばたき）、来年度から始まるフリースペースでの活動を通して、子どもたちの横のつながりをつくっていくことが大切であると感じました。

○河原委員

この教育大綱は、教育委員会が具体的に進めている計画や事業を尊重・踏襲して策定していただいております、大変ありがとうございます。

また、現在、教育委員会が進めているいろいろな事業が盛り込まれていますので、これまで同様、予算の確保について御留意いただきたいと思います。

○寺田委員

この教育大綱は、総合計画における教育、学術及び文化の振興に関する施策を抜粋したもので定められていますが、総合計画策定過程で市民から意見を聴取した際、どのような意見が寄せられ、どのような修正等がなされたか伺いたい。

○教育部長

総合計画策定過程においてパブリックコメントを実施した結果、生涯学習課の施策に関して市民から御意見をいただきましたが、それによる施策内容の変更はしていません。内容については、生涯学習課長から御報告します。

○生涯学習課長

施策「生涯学習の推進」を実現するための「心の豊かさを育む芸術・文化の振興」に関する取組に、「文化の香りのする市とすること」という項目を追加してほしいといった御意見がありました。その意見の中で、公共施設に芸術作品を展示すること、大学や大学のサテライト教室を誘致することといった具体的な内容が示されていましたが、市としては、施策内容の変更は行わず、既存の事業の中でこれらを検討したいと回答しています。

○市長

ほかに御意見ありますか。

○萩谷委員

守谷市は、教育に関して、とても充実していてありがたく感じていますが、自分の子どもの卒業式に出たとき、私立中学校へ進学する子が多いことに気付きました。子どもたちは、自分たちの教育環境が恵まれていると感じていても、保護者には十分伝わっていないのかもしれない。今後は、守谷の教育のすばらしさを保護者にいかに発信していくかも考えるべきではないかと思いました。

○市長

ありがとうございます。

そのほか、何かありませんか。

なければ、これを守谷市の新たな教育大綱とさせていただき、公表していきたいと思いますが、よろしいですか。

○各委員

はい。

○市長

続いて、(2) その他に移りたいと思います。

事務局から、来年度からスタートする「未来の教育もりやビジョン2022」について、説明をお願いします。

○参事

令和4年度の市長の重点施策の最初に「わくわく子育て王国もりや」を位置付けられましたが、「未来の教育もりやビジョン2022」は、まさにそれを実現し、新しい学校教育のモデルを創造するためのビジョンになります。

これまでの学校教育改革プラン（3か年計画）により、守谷の人・物・時間という教育環境を県内で一番、全国でもトップレベルの整備をしてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やSociety 5.0など、いわゆる予測が困難な時代に対応するためには、この教育環境を基盤に、子どもや先生、保護者が相互につながるが必要になると考えています。その考え方を反映させたものが「未来の教育もりやビジョン2022」になります。守谷では、そのビジョンにより新しい教育をスタートさせてまいります。

ビジョンは、ピンクゾーンの「学び方改革」、グリーンゾーンの「働き方改革」、そして、ブルーゾーンの「もりや心の教育」、オレンジゾーンの「学校生活改革」と、大きく4つの視点から構成されています。それぞれ関連性があり、相互に補完し合う相乗効果で、子ども、先生、保護者の生活の充実・ゆとり・スマート化を狙っています。

次に、相互補完、相乗効果のイメージについて、例を基に説明いたします。

ピンクゾーンの「学び方改革」の一番上に「一人1台端末を学力向上に生かしていく「守谷型ラーニングスタイル」というものがありますが、これは、守谷でオンライン学習を積極的に実践してきた成果を基に、来年度、端末を活用した授業改善を加速させるといったプランになります。

対面の授業とオンラインの学習と家庭での学習をつなぎ、守谷型の授業改革を加速させるイメージができています。また、学習面においても、特に協働というところで、一人1台端末を使って、さらに子ども同士のつながりを深めていきたいという構想もあります。

その反対側にあるグリーンゾーンの「働き方改革」の一番上には、「主体的・対話的で深い学びを実現する「教材バンク」というものがありますが、守谷市では、独自のポータルサイトに、小学校・中学校別、学年別、教科別に市内の先生方の学習指導案を共有するための教材バンクを整備しています。

このように、左側のピンクゾーン「学び方改革」と右側の授業力改革のための教職員の「働き方改革」が相互につながっている、そういうイメージ図になります。

次の例では、ピンクゾーンの3つ目の「学びの記録をデジタルで蓄積する「守谷型eポートフォリオ」は、子どもたちの作品をデジタル化してクラウドに保管するという考え方になります。その反対側のグリーンゾーン「働き方改革」の2つ目には、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境」が挙げられていますが、これらが、どのように関連し合っているのかについて御説明します。

これまで、先生方は授業参観前に掲示物を貼り替える作業が非常に大変でした。しかし、作品をクラウド化することで、先生方はこの作業が不要になり、作品を掲示しなくても、子どもたちは、いつでもお互いの作品を鑑賞することができ、また、自分たちの作品を振り返ることも、保護者に見ていただくことも可能になります。このように、これらは相互補完の関係になり、作品のクラウド化は、子どもたちにも、そして先生方にも優しい、そ

んなビジョンになります。

こうした取組により、子どもたちの学びや生活をよりスマートにして、教員の働き方改革につなげていきたいと考えています。

つまり、ピンクゾーン、グリーンゾーン、ブルーゾーン、オレンジゾーンの取組がそれぞれに補完し合い、子ども、先生、保護者の生活の充実・ゆとり・スマート化が図られる、そんなビジョンになります。

次に、このビジョンの最大のポイントである週3日の5時間授業「守谷型カリキュラム・マネジメント（守谷型カリ・マネ）を生かした部活動改革」について説明いたします。

オレンジゾーンに位置する「守谷型カリ・マネを生かした部活動改革」は、守谷独自の究極の部活動改革であると自負しています。

ポイントは3つあります。

1つ目のポイントは、守谷型カリ・マネにより、中学校でも3年前から、週3日の5時間授業を実施していますが、その日をアーリーデイと称して部活動を実施することで、活動時間を確保しながら、生徒の下校時刻を早めることを可能にした点です。ちなみに、部活動をしっかり100分行っても、16時50分には生徒の完全下校が可能であり、明るいうちに帰宅させることができます。オールシーズンにおいて、教員の勤務終了時刻とほぼ同時刻に生徒たちを下校させることが可能となります。

2つ目のポイントは、部活動も授業と同様に50分を1単位として、それを週7コマで回すことで、活動を計画的に、そして効率的に運営することを可能としたことです。50分、100分単位で活動内容をメニュー化、定型化することで、外部指導者に指導をお願いする場合においても、連携等において有効であると考えています。

そして、3つ目のポイントは、中学校教員の部活動後の時間のゆとり確保となります。働き方改革において最も解決困難とされてきた部活動改革ではありますが、この部活動改革こそ、普遍性のある、そして守谷独自の教育環境を生かした、とても斬新な取組であると考えています。

次に、これにより期待される効果について、御説明いたします。

まず、生徒の下校時刻については、オールシーズン16時50分、大会前後のチャレンジシーズンでさえ17時10分には下校させることが可能になります。ビジョン実施前のどの時期よりも下校時刻が早く、また夏場と冬場の変動が極めて少ないことが効果として挙げられます。

また、部活動の活動時間については、このビジョンにおいて3シーズン制を取り入れたことにより、活動時間にメリハリをつけることができます。特に、チャレンジシーズンと呼ぶ大会期間は、ビジョン実施前と比べ、若干ではありますが活動時間を増やすことができます。

最後に、部活動後の時間、いわゆる教員のゆとりの時間は、ビジョン実施前に比べ、週最大3時間、創出することができます。

もちろん、シーズン制を取り入れるため、そのゆとりの時間は季節によって変わりますが、10月下旬の2週間を除けば、これまでとの比較でも、ゆとりの時間を創出することができ、また、他市町村では、週4日6時間授業で18時15分まで部活動を実施するところがほとんどであることから、守谷においては、他市町村より、週5時間、ゆとりの時間が多いということになります。

○市長

ありがとうございます。

委員の皆様から御質問、御意見があればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

(寺田委員)

このビジョンは、非常に良い、素晴らしいものだと思います。ぜひ、これを実現して、子どもたち、それから先生方がお互い向上し合い、守谷の教育がさらに向上することを期待しています。

現在、ＩＣＴ化が進み、いろいろな形で教育改革がなされ、様々な環境の中で子どもたちの学習の機会が拡大するのは、非常に良いことだと思うのですが、生涯生きていく中で、人とのつながりも非常に大事だと思います。

また、教育改革をただ進めるだけではなく、小学校の低学年のうちに、基礎学力を定着させることを念頭に置いて、教育を進めてほしいと思います。

○参事

今、御指摘いただいた基礎学力（読み・書き・計算）について、タブレットを有効に使いながら、しっかりと定着させてまいりたいと思います。

○寺田委員

よろしくお願いします。

○教育長

教育改革を進めることは、学力の定着にもつながると思います。そのために、授業の改善を進めてまいります。

○河原委員

部活動改革に着手し、それを進めようという意欲と工夫は、多分、全国でも珍しいものですので、ぜひ成功させてほしいと思います。

さて、自分の経験からすると、これだけ部活動の時間を制限すると、ある程度、部活動の成績が落ちることも覚悟しなくてはならないと思います。そのため、保護者、部活動に意欲を持つ生徒、それから部活動に意欲を持って取り組んでいる先生方、そういった方々から理解が得られないと、この改革はなかなか進まないと思います。

一定時間、練習時間を減らしていこうとすると、どうしても熱心に活動し成績を求めたい保護者や生徒、それから、これまで熱心に、長年コーチとして頑張ってきた先生方の熱意が行き過ぎて、自主練と称した朝練や体育館の夜間開放を活用した活動などに行きがちです。

ですから、共通理解の下、進めてほしいと思います。また、そのために、全国レベルで活躍するチーム等が減ることを覚悟しなければいけないことも、みんなが理解しなければならないと思います。

一方で、運動が得意ではない子どもたちには、運動部に参加していないことで、子どもたちの人間関係の中で自分が阻害されるのではないかといった感覚が多少あるように思い

ます。文化・芸術系の部活動は、先生方や子どもへの負担が比較的少なく、それぞれ自分たちの得意なことを伸ばせると思いますので、文化・芸術的な部活動の振興などにも取り組んでいただけると、良い成果が出るのではないかなと思います。

画期的な取組だと思いますので、良い結果になるように期待しています。

○教育長

部活動の改革を進めようと思ったのは、守谷型カリ・マネを導入したときで、将来的には部活動の改革まで結びつけたいという思いが強くなりました。

現在、コロナ禍にあって、子どもたちは部活動の時間についてそれほど意識しておらず、テレビの報道特集など世論の勢いもあることから、来年度から進めることにしました。

この改革は、教育委員会だけでは前に進まないと感じており、保護者も巻き込んで進められるような計画にするため、中学校の校長先生方と協議を重ね内容を決定しています。

既に中学校において、来年度の部活動改革の内容について先生方に周知し、会議等を開いていますが、これまでのようにしなければだめといった意見等はなかったと聞いています。

この部活動改革は、部活動を制限するとか活動時間を削減するとかということではなく、全体（１年間）で考えれば、部活動の時間は今までと同じ程度は確保できています。

このことから、この改革が始まり、その良さが少しずつ浸透していくことで、保護者や先生方から理解や協力が得られるものと考えています。

それから、部活動には、勝ち負けが最後にあるため、そのところで意見等が出されるかもしれませんが、科学的には、練習時間が長ければ成果が上がるということではないということが実証されています。

我々としては、保護者からも、それから熱狂的な先生方からも、協力が得られるような内容にしようということで進めてきましたので、これからは保護者や先生方に対して、必要に応じて説明していきたいと思います。

最後になりますが、部活動改革を進めなければ、長時間勤務による先生方の過労死が起きても不思議ではないと考えています。「死」という言葉を前に、その重みを考えたとき、部活動の形を変えていくことが必要だと強く思いました。そのことを、理解していただけるように進めていきたいと思います。

○市長

もちろん、先生方は大切で、先生方の働き方改革を進めるに当たっては、「先生が元気であれば子どもも元気じゃない」といった考えが私にもあります。そういう中においても、やはり子どもたちが勝ちたいと思うのは、これは自然なことだと思います。やはり、勝ち負けということは人生においては必要な価値観だろうと思いますし、子どもたちの勝ちたい、勝つために我慢するということも含めて、大切な教育だろうと思います。

また、私は、一人ひとりの個性をどのように生かしていくかということが、究極の教育だと思っています。そういう意味では、学習だけでなく、やはり部活動、特に文化的な部分においても、その子に合った活動が、学校という場の中で保障されるようお願いしたいと思います。

○教育長

文化部の活動については、守谷では非常に熱心に進めています。毎年全国的なコンクールで入賞している美術部もありますし、それから、ブラスバンドは全ての中学校において頑張っており、去年は上の大会に出場したところもあります。それから、アーカスと協働して、新しい美術のスタイルを求めるような部活動もあり、ほかの市町村と比べても、文化部の台頭というか、そういった部分はいろいろなところに見受けられます。このようなことから、文化部においても、充実させていきたいと思っています。

それから、活動時間が短くなるというイメージがあるようですが、全体的には、決してそうではないということを強調していきたいと思います。チャレンジシーズンには、勝ち残っていくチームは、さらに活動時間を延ばして進めていくこともできます。

現在、朝練はありませんが、なぜなくしたのかというクレームは一つ也没有。これは、実態として定着しているということだと思います。だから、この部活動の改革案についても、実際に動いていけば、その中で保護者の了解も得られ、子どもたちもモチベーションを下げることなく学校生活に臨むことができるのではないかと思います。

○椎名委員

部活動改革等により得られたゆとりの時間の使い方については、校長や教員の自覚の問題かもしれませんが、自己啓発等にも使用していただきたいと思います。

○河原委員

良い教員、力のある教員といった評価の1つに、顧問する部活動において良い成果を挙げているといったことがあります。本来はそうではなく、良い授業、分かり易い授業のための準備をしっかり行う先生が、優れた良い先生だと考えています。これにプラスされるものとして、子どもとの人間関係や部活動の指導があるといった価値観を、管理職や先生方自身が持ち、広げていかなければならないと思います。そういったことのPRも含めて、部活動改革に取り組んでいただきたいです。

○市長

ありがとうございます。

○寺田委員

ぜひ、守谷市の教育について、市のホームページで発信していただきたいと思います。

○教育長

各学校のホームページを充実させ、いろいろな形で情報発信・PRを行っていますが、それでもいろいろな御意見をいただくということは、まだ不十分なのだろうと思います。

いろいろな教育環境が整備され、その中で子どもたちが、健全に学習、運動に取り組んでいる姿があります。また、学力の面では、すばらしい定着の度合いもあるわけですから、そういったことも含めて、守谷の教育を知っていただけるよう、情報を発信してまいりたいと思います。

○市長

ほかに、ございませんか。

それでは、これをもちまして、令和３年度第２回守谷市総合教育会議を閉会といたします。ありがとうございました。